

27年3月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成27年 2月20日～ 27年3月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
3月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27年3月	4月	5月
仕入 動向	国産材製材品	△ 37.5	△ 12.5	12.5
	外材製材品	△ 37.5	△ 12.5	0.0
	構造用集成材	△ 21.4	7.1	21.4
消費 動向	国産材製材品	△ 25.0	△ 14.3	7.1
	外材製材品	△ 25.0	△ 12.5	12.5
	構造用集成材	△ 7.1	7.1	21.4
在庫 動向	国産材製材品	△ 25.0	△ 6.3	0.0
	外材製材品	△ 25.0	△ 6.3	△ 6.3
	構造用集成材	0.0	7.1	7.1

・プレカット加工用部材の仕入れは国産材及び外材共に3月、4月は減少、5月は国産材は増加、外材は横ばい、構造用は3月の減少が4月、5月は増加に。
・国産材及び外材製材品の消費は3月、4月の減少が5月は増加に、構造用は3月の減少が4月、5月は増加に。
・国産材及び外材製材品の在庫は3月、4月共に減少、5月は国産材は横ばい、外材は減少、構造用は3月の横ばいが4月、5月は増加に。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	27年3月	4月	5月
受注	12.5	12.5	18.8
加工	6.3	25.0	18.8
受注残	△ 12.5	12.5	12.5

・受注及び加工は3ヵ月連続して増加。
・受注残は3月の減少が、4月、5月は増加に。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

・仕入れは、国産材製材品は引き合い多し、品薄傾向。外材は変化なし。消費は横ばいで推移。在庫は低水準で推移。
・為替と市況を見極めて仕入れする。消費は鈍い。在庫は平均ボリュームをキープする。
・材料持込物件が役半分で集成材の物件はほとんどない。邸別仕入れが主体で在庫はほとんどない。
・仕入で値下げの商品も出て来た。今後の消費は余り期待できないようだ。

(受注動向)

・受注はこれから、加工は低調、受注残少ない。
・動きが鈍い。
・多少年度末で受注増があるが、先が見えづらい。